

大震災・復興ニュース（第31報）

平成23年11月18日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況（国及び県全体の動き）

宮城県内の水産物の放射性物質測定結果について

宮城県内で採取した水産物について、下記のとおり放射性物質の測定結果をお知らせします。

- 1 測定年月日 平成23年11月8日～11月16日
- 2 測定分析機関 (財)日本冷凍食品検査協会,(財)日本分析センター,いであ(株),
(独)水産総合研究センター中央水産研究所
- 3 測定結果 放射性ヨウ素はすべて不検出であり,放射性セシウムも国が定めた暫定規制値を下回り,
安全性に問題がないことが確認された。

水産物（漁獲日 平成23年11月2日～11月11日）

（単位:ベクレル/kg）

種別	漁獲場所	放射性セシウム	種別	漁獲場所	放射性セシウム
ブリ	三陸南部沖	3.9	カタクチイワシ	三陸南部沖	4.8
アイナメ	宮城県沖	5.4	生ノリ（養殖）	宮城県沖（松島湾）	不検出
クロソイ	宮城県沖	4.7	生ノリ（養殖）	宮城県沖（石巻湾）	不検出
ミギガレイ	宮城県沖	2.28	乾ノリ（養殖）	宮城県沖（松島湾）	不検出
マコガレイ	宮城県沖	2.5	乾ノリ（養殖）	宮城県沖（仙台湾）	不検出
シロサケ	三陸南部沖	不検出	ピンナガ	太平洋沖合	1.67
マガキ	松島湾	不検出	メカジキ	太平洋沖合	4.2
マガキ	石巻湾	不検出	キハダマグロ	日本太平洋沖合北部	10.1
ヒラメ	宮城県沖	3.7	カツオ	日本太平洋沖合北部	12.5
マガレイ	宮城県沖	12.2	サンマ	北海道・青森県沖太平洋	0.47

放射性物質の値は漁獲日における値を示す。

食品衛生法の規定に基づく食品中の暫定規制値

放射性ヨウ素 2,000ベクレル/kg 放射性セシウム 500ベクレル/kg

<水産漁港部からのお知らせ>

災害復興に向けた第三回打ち合わせ会開催

- ・11月22日（火）午後1時30分より、仙台地方振興事務所水産漁港部会議室において、管内漁協支所長等を集めて復興に向けた現状と対応についての打ち合わせ会を開催予定。

漁場の啓開(けいかい)作業状況

- ・ 漁場の啓開作業は、松島湾，宮戸，七ヶ浜海域のコンテナ撤去作業が完了した。
- ・ 仙台湾漁場については、残っていた仙台海域の浮遊物の撤去作業を開始するとともに、閉上・山元海域の沈下物の撤去作業を継続実施中である。



仙台海域での浮遊物撤去作業状況

2 管内の復興に向けた動き

<トピックス>

管内でノリの摘採が本格化

管内でノリの摘採（摘み取り）が始まった。摘採が始まったのは、県漁協浦戸支所，宮戸支所，宮戸西部支所，七ヶ浜支所である。

浦戸支所では最も早い10月31日から摘採を始めており，摘採後，乾燥機4台を10名の共同で使用，1日4～5万枚を生産している。

なお，11月21日（月）に今漁期一回目の入札会が予定されており，8時から見附，セレモニーが9時からとなっている。



宮戸支所でのノリ摘採

（朝日新聞記事より抜粋）

宮城県南部施設保有漁協が創立

11月11日，宮城県漁協塩釜総合支所において，宮城県南部施設保有漁協の創立総会が開催された。

この漁協は，新たな資産取得により宮城県漁協の自己資本比率が下がることを避ける目的で新設されたもので，北部，中部でも同様に施設保有漁協が創立されている。

組合員は一口（1万円）以上を出資し，グループを組んで施設を利用する際に利用料を支払う。

この漁協の本所は宮城県漁協塩釜総合支所に置かれ，平成23年度に漁船等33億円，陸上施設4億円分を取得し，国・県の補助を受ける予定としている。



南部施設保有漁協創立総会